

図書館の活動紹介 ～授業支援から～

星先生担当のリーディング・ライティングの授業支援の一環として、いけばな・製菓・ブライダル・トータル・医療・国際経営の各コースの1年生の皆さんに、図書館を案内しました。図書館の意義や理念、実際の使い方について、またレポートの書き方と参考文献について司書2人で説明させていただきました。短い時間でしたが、皆さんと直接会ってお話ができ嬉しかったです。図書館に少し興味を持ってもらえたかなあ、と思います。図書館は皆さんのための施設です。ぜひたくさん活用してください。何か分からないことがあれば、いつでも、なんでも聞いてください。お待ちしております！



学生からのおすすめ図書の紹介 ～いけばな・花デザインコース(1年生)編～

著者は「一つひとつの物に対して執着がうまれると、心を乱す原因が増える」と述べた。私はこの観点に共鳴している。英語でも「less is more」という観点がある。池坊専永も「最小の中にある無限」と述べた。人生には様々な誘惑や欲が必ず来る。全て欲しいと考え、手放せなくなると、最後は何も得られない可能性があるだろう。執着を減らして、心を大掃除したように、本当の大事なことが見られる。私も著者のように日々自省したい。(湯麗亨)

*池坊専永著

『池のほとり: 花と歩んだ七十年』 金嶽宗信著
(793.049-イ/00057329)



『〈禅的〉持たない生き方』
(所蔵無し・発注予定)

この本は前作主人公のタマゴの語りから始まり、作中、イチジクが自身の冒険譚をお話会で皆に語る所は『オデュッセイア』と通ずる所があります。かの叙事詩では、主人公視点で物語が語られる為どこまでが真実かわかりません。それはこの本も同様に、最後のお話会后、客一人の提言を皮切りに皆、客から評論家へ変貌を遂げます。筆者もその輪の中の一人です。最後に、この本は、タマゴがお話会で見聞きした「主観」から始まる物語です。

(角田俊太郎)

しおたにまみこ作

『いちじくのはなし』(所蔵無し・発注予定)
『たまごのはなし』(Eタ/00065321)



司書の葉 ～芭蕉(俳人)かバショウ(植物)か？～

グループワーク中と思しき学生さんたち何人かがOPAC(検索機)で何やら検索をしていた時の事です。「911やって～」と聞こえ、(911は詩歌の番号だけど、珍しいな?)とっていると「なかったわ～」と戻ってきました。そこで「何かお探しますか?」と声をかけると、「バショウの本を探しています」との事。なるほど「バショウ(大きい葉っぱの方)」ね! 「芭蕉(俳人)」の本がたくさんヒットしますね! だから911の棚に行ってしまったのね! と納得。そういう時にはまず植物事典・図鑑を調べます。参考書架と一般書架の請求記号(背ラベルの番号です)が「470」の「植物」の棚と、花材として調べるならこちらと「華道」の「793」の棚を案内し、その間に検索。するとさすが牧野富太郎先生! 著作集の中にバショウの記事が見つかりました。学生さんたちからも好反応ですが朝の連続テレビ小説(放送中)にもなる牧野先生です(2回目)。ちなみに薔薇や椿など「園芸植物」は「627」です。今回の調査対象からは外れますが、植物関係のレファレンス(調査相談)では要確認の番号です。

OPACは特定のタイトルが決まっているとしっかり見つけてくれるのですが、あるテーマの本を探す時や今回のような場合はちょっと検索にコツがいます。なかなか目当ての本が見つからない時はためらわずにカウンターへご相談ください。でもOPACで調べてみようという姿勢がすばらしい! これからもたくさんのご利用をお待ちしています。

ご案内できなかった資料も含まれます。
ぜひまた参考にしてください。

参考文献:

- ・『四季別いけばな花材総事典』講談社編、講談社、1987年、P228-229
- ・『種子植物 単子葉類2 (朝日百科植物の世界 10)』朝日新聞社、1997年、P194-200
- ・『仏教ゆかりの植物図鑑』松下俊英文:大島加奈子絵、東本願寺出版、2023年、P36-39
- ・『世界の植物をめぐる80の物語』ジョナサン・ドローリ著:穴水由紀子訳、柏書房、2022年、P101-102
- ・牧野富太郎「日本のバショウは芭蕉の真物ではない」
(『講演再録・さまざまな樹木 牧野富太郎選集 第3巻』牧野富太郎著、日本図書センター、2008年、P233-235)



文献を調べてレポートを書く時は複数の文献に当たります。記述を比較して検証することが読者の力のあるレポートに繋がります。

OPAC(検索機)と司書を上手く使い分けてください。
QRコードからも検索できます。